

上東っ子を **ガンガン** 伸ばす 家庭の時間を応援する 上島東小学校 教務部  
**家庭学習応援だより** 令和3年10月26日発行  
**アンケート特別号**

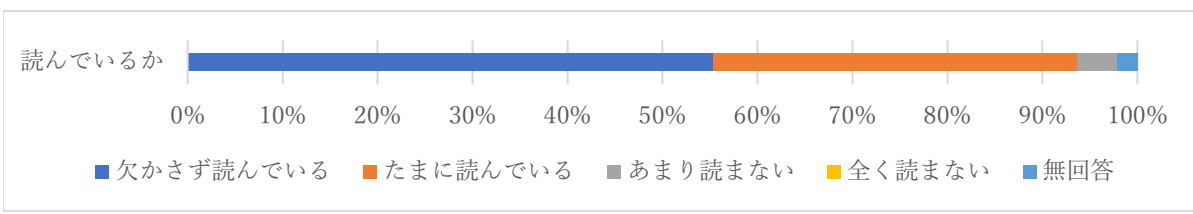
先日は「家庭学習応援だより」に関するアンケートへのご協力ありがとうございました。回答していただいた方すべての回答に目を通させていただきました。すべての保護者が満足するお便りを作ることは不可能ですが、なるべくニーズに沿ったものを発行していくために、今回のアンケートの回答は参考にさせていただきます。今号は、そんな熱い思いに応えるべくB4判で発行します。

賛否両論ありますが、ご回答いただいた方は、おそらくお子様や家庭学習への関心が高い保護者なのかなという感想をもちました。当たり前のことですが、書かれていることを全部実践しようとすると「お母さん、どうしちゃったの？」と子供がかえって怖がりますから、記事の必要な部分だけをうまく使ってくださいね。

### 質問1 「家庭学習応援だより」を読んでいるか？



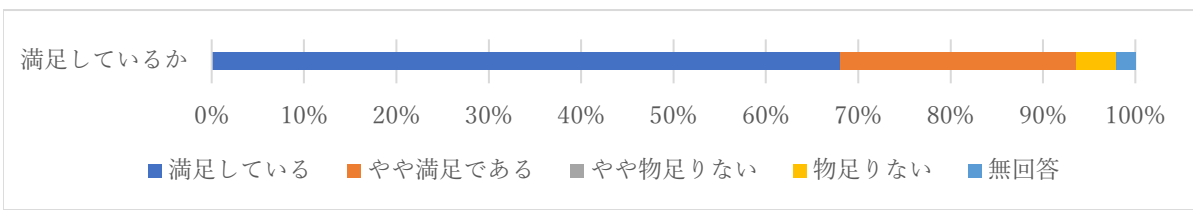
こちらは、「欠かさず読んでいる」が一番多かったです。次に多かったのが「たまに読んでいる」でした。「あまり読まない」はおらず、「全く読まない」もほとんどいませんでした。お便り自体への関心でも、家庭学習への関心でもよいのですが、いずれにしても高い数値で非常にありがたいです。



### 質問3 「家庭学習応援だより」には満足しているか？



こちらは、「満足している」が一番多かったです。また、「やや満足である」ももちろんたくさんありましたが、「やや物足りない」が全くなく、「物足りない」のほうがあったのは意外でした。こうした結果になった理由は2つ考えられます。1つは、お便りにわざわざ書かれるまでもなく、すでに実践している家庭。これでは「物足りない」はずです。もう1つは、確固たる独自の教育観をお持ちの家庭。「物足りない」というよりも、お便りの情報はきっと役に立たないでしょう。



### 質問4 記事の内容はどうか？



多くの感想やご意見ありがとうございました。1つ1つに回答していくことは難しいですが、記事に関するご意見では、大まかに分けるとこのような感じでしょうか。

○ 「ほかの家庭はどんな学習をしていますか？」、「ほかの保護者の方の実体験、好事例がかかれていたらよいと感じました。」、「おすすめの学習法は？」、「おすすめのドリル、言葉かけ」、「各学年でどんな学習をさせたらよいですか？」、「学習の仕方と具体例を載せてもらいたい。」、「宿題を一人でやり、間違いは家で直させるべきなのか気になります。」、「学習が嫌いな子にも対応できる情報が欲しい。」という具体的な学習の仕方や方法

↑ 圧倒的に多いご意見でした。よく話す親御さんでも、なかなか他のご家庭の学習の様子まではわからないものです。また、担任がすすめる学習の仕方もさまざまで、どれが正解なのかって思ってしまうですね。

○ 「習い事の日、ご飯、お風呂、宿題、家庭学習と、寝る時間が遅くなってしまいうことがあるので、皆さんどんな工夫をしているか知りたいです。」という時短術

↑ これは子供を持つご家庭の永遠のテーマですね。私も知りたいくらいです。ちなみに少しだけ調べてみました。子育てにまつわる時短で心がけたいのは、子供にかかわる時間を確保しつつ、その周辺の時間を節約することです。ある調査では、1日5分程度でも、一緒に遊んだり、会話をしたりすることで、子供の問題行動が減り、親子ともにストレスが軽減したという結果があるそうです。

○ 「イライラしてしまうのですが。」、「どうしても怒ってしまいます。みなさんは、どんな対応していますか？」、「子供のやる気を引き出す言葉かけを教えてください。」、「興味、関心を持ちにくい子が目標を持つには？」、「学習と兄弟(姉妹)のあるあるや解決法。」、「親は勉強に対してどこまで関わっている？」などの子供への関わり方

↑ こちらも多いご意見(悩み?)でした。次号でヒントになるような記事を掲載したいと思えます。お楽しみに。

○ 「上島東小児童の学習状況」、「担任からのコメント」、「宿題のないクラスがあるようなので、そのクラスはどんな家庭学習をしているのか、宿題があるクラスよりも充実しているのか知りたいです。」など、学校の実態

↑ 宿題が少ないというのはあるにしても、宿題が全くないということはないのかなと思うのですが、学校の学習の様子を知りたい親御さんは結構いました。ぜひ、二者面談をご活用ください。

○ 「面白いです。」、「楽しみに読んでいます。」、「満足しています。」、「親子で楽しく読み納めました。」、「毎回内容が充実している。」といった励ましのお言葉

↑ このように言っただけのように、これからも面白く役立つ記事を作っていきたいと思えます。

## 質問5 お便りの感想をお願いします



質問5の感想についてはさまざまでした。まとめるとこんな感じです、ってまとまっていませんね。

- 「久しぶりの捨てたくないお便りでした。HP からスクショして保存しています。専門家の書いたような内容なのに、上東独自のアンケート集計をもとにした内容であったり、先生方からのコメント、とても読みやすかったです。…【とても熱心に書いてくださったのですが、全て載せきれません、ごめんなさい。】…先生方の熱意が伝わってくるお便りだと思いました。」「内容が様々でとてもためになりました。」「担任の先生方から学校の様子を記事にさせていただいて良かったです。」「毎号、心に刺さる言葉が載っているので、親として一喜一憂しながら読ませていただいております。これからも役立つ情報の発信を楽しみにしています。」「もっとしっかり読んでおけばよかったと思いました。読んでハッとさせられる内容もあり、心配していたことや悩みが緩和できて、ありがたいです。」「毎回なるほどと思いながら読ませていただいています。他の家庭の学習している様子や子供に声をかける時の工夫など学習や生活について、こうしてみようと思うことが書かれていて参考にしています。」「…学校からの応援だよりをいただくと、励まされる思いでがんばれます。」「参考になることが多くこれからの学習に役立つと思いました。」「とても面白かった。」「毎回楽しく読ませていただいています。」「これからも楽しみにしています。」といった温かいお言葉

↑ここまで反響があるとは思ってもみなかったもので、ありがたい限りです。かえって保護者の皆様の熱意をこちらが感じてしまいました。

- 「内容は良いのですが、文字が多い。」「予算上問題なければ、カラーにしてほしい。」との要望  
↑そうですね。カラーがいいですね。今回からカラーにいたします。字数については、文章は少なくしたり、文章を省略したりすると間違った受け止められ方をされる恐れがあるため、すみませんが今後もこれでいきたいと思います。
- 「悩み相談の答えを参考に子供と一緒に学習を進めることができました。」「…迷ったりしたときは読み返して、自分なりに対応を修正したりしています。」「自主性を持ち学習に励んでほしいですが、声かけなど、難しいなと感じています。」「“応援だより”は宿題、学習方法などを改めて考える機会となりました。プリントを読みながら、夫婦で議論したことも…笑。勉強って楽しい！を伝えられるように、親の意識を変えないといけないとは思っていますが、ついガミガミ言ってしまい反省する…の繰り返しです。」など家庭での実践や悩み

↑いろいろお試しいただいて、ご家庭に合ったものを見つけていただけたら幸いです。

- 「目は通しているが、発行しなくても構わないと思います。」との厳しい感想

全体的には、大多数が肯定的に受け止めてくださっているの、正直ほっとしました。否定的な意見や感想がもっとあるかと思っていたのですが、ごくわずかでした。最後に、上記の感想やご意見に1つ1つお答えすることは、この場では控えますが、今後発行するお便りの中で、応えにかわる記事を載せていきたいと考えています。また、「すぐにでも相談したい」という方は、学校まで遠慮なくご連絡ください。

## 「宿題やったの？」は逆効果？



宿題に限らず、子供が自分から行動できるようになったらいいですね。そのためには「宿題やったの？」という言葉は逆効果です。大人でもそうですが、「これからやろう。」とか、「これはやっておかないと…。」と思っていることを人から先に言われるとやる気はなくなりがちです。なぜなら、わかっていることを先回りして言われるのは面白くないからです。また、「やったの？」の言葉は、「やってないでしょ？」「やりなよ。」と疑っていたり、強いられたいように聞こえませんか。

では、どんな声かけをしたらよいのでしょうか。例えば、明らかに宿題が終わっていないようなときは「算数と国語どっちからやる？」など、二択にして声をかけるのも一つの手です。子供がどちらかを選ぶにしても、自分で決めたという意思決定をしているので、責任をもって学習に取り組むというわけです。

「宿題やったの？」は、親のお決まりのセリフですが、よく観察していると、宿題の時間を決めていたり、取り組む順番を子供なりに決めていたりすることがあるものです。「やる」「やらない」だけでなく、その隙間にある行動に注目してあげてほしいと思います。そして、あたかも「自分でできた。」に導いてあげてください。もちろん、最後に「よくできたね。」というほめ言葉を忘れずに。

おわりに

最近、「二月の勝者(日本テレビ)」というドラマが始まりました。初回の視聴率は9.2%だったそうです。小学館から出ている高瀬志帆さん原作の漫画で、進学塾が舞台です。進学といっても、高校受験ではなく、中学受験です。中学受験は、児童本人と家庭の判断で行うものですから、是非かということではもちろんありませんが、ドラマに出てくる子供たちの背景には様々な形の家庭があり、また、親の姿が見えてきます。

私は小学校の担任としては、中学受験を経験したことはありませんが、中学校では担任として、これまでに何人もの生徒の進路を親子とともに考えてきました。そのたびに思うことがあります。「受験の成功って、合格がすべてなのか？」ということです。もちろん合格は成功の1つの形です。我々教師も合格を願って指導にあたります。ですが、合格と引き換えに、子供が、あるいは親子が、家族の大事なものを失うようなことがあったら、その合格は成功といえるのでしょうか？間違っても受験が親子の溝を深めるようなことになってはいけません。理由は簡単です。親が「我が子に幸せになってもらいたい。」のと同じで、子供が受験勉強を頑張るのは、もちろん自分のためが半分ですが、もう半分は、「親に喜んでもらいたいから。」なんですよ。子供たちの家庭での勉強も同じです。子供は親に、褒めてもらいたい、喜んでもらいたいと思って家庭学習をしています。そのことをどうか忘れないでください。